

〔千家茶事不白齋聞書〕長緒之事

一長緒は先ヅ平茶入によし併ツ、立候茶入は長緒付る事も昔より有ル事也紀州ニ上杉瓢箪として名物也是は珠光紹鷗を傳ナリ古金ランノ袋ニ淺黄ノ少シ短き長緒付有之是を先ヅ形トス茶入は唐物也珠光紹鷗ノ時ハ皆長緒也利休被傳候も長緒也後利休ハ短き緒出來依而其後長緒不用候處原叟宗佐常叟江相談又長緒遣ひ初色は先ヅ紅紫ナリ棗に長緒は無之候

袋之事

一大津袋は棗に限り候袋也併又春慶などはだ能茶入には付て不苦此袋は大津ハ米を入來ル袋形にナル仙叟より柿袋は他流もの此方に不用袋は四ツ立として切四ツに去たる物也片身替り逆切れ二ツにて縫有り是は面白切逆切能方を客附江遣ふ

唐物茶袋之事

一唐物茶入袋は緞子能候併紀州ノ上杉瓢箪は萌黄地の古きんらん掛り有之候珠光紹鷗を傳る茶入なれば是を形とシ不苦と如心齋申候唯唐物に金入を掛たる例有ト云事に而先ヅは緞子能候天目は金入ノ袋能候緞子を掛る例も有之候

〔茶話真向翁乾〕界の何がし紹鷗を茶に招きし時天目を金襴の袋に入れて蛟龍臺にのせ床にかざられしを見てあなたうととて拜手一笑せられしとかや案るにいにしへ金襴を茶入の袋にかくる事なし袋に古金襴を賞翫するは遠州政一小堀以來の事也

〔真要集三〕棗中繼會釋之事

一棗は袋に入中繼は和巾に包物にて候織田有樂侯へ利休棗中繼を袖に入れて持參申候棗は袋に入中繼は和巾に包申よし此棗中繼貞置候に有之中繼は蓋の合口深き故袋に入不申候棗は袋に入と可知